

安心・安全からサービスへ 通信型ドライブレコーダーのデータ活用戦略

2025年11月12日

技術本部 先行技術4部

紀田 亮平

JVCケンウッド会社概要

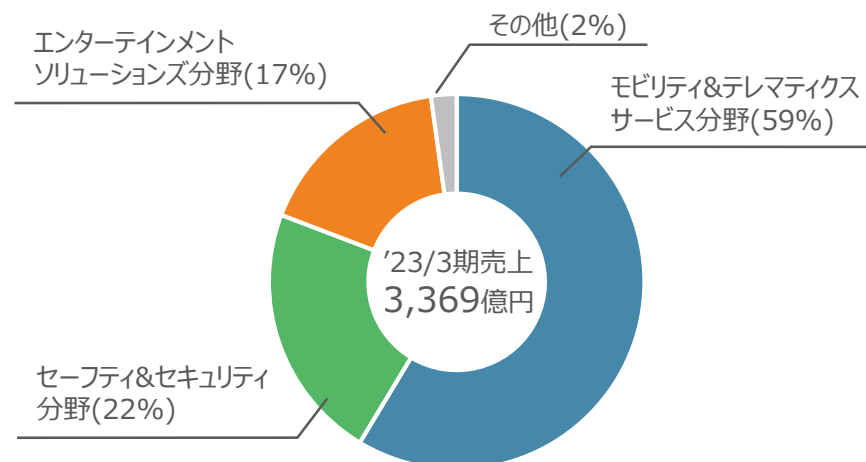


社名	株式会社JVCケンウッド
設立	2008年10月1日 日本ビクター：1927年9月13日創立 ケンウッド：1946年12月21日創立
代表者	代表取締役 社長執行役員 CEO 江口 祥一郎
従業員数	連結 16,585人（2022年3月31日現在）
資本金	13,645,825,000円（2022年3月31日現在）
本社	神奈川県横浜市
上場市場	東証プライム市場 コード6632
売上	3,369億円(2023年3月期)

ブランド



分野別売上収益構成比（'23/3期）



JVCケンウッドの製品・サービス

■ “感動”と“安心”をキーワードに、幅広い製品・サービスを開発し、世界中へ提供中

モビリティ&テレマティクスサービス分野



ナビ、ディスプレイオーディオ、
車載音響システム、DVR、
EVバッテリーリユース電源



IoTプラットフォーム



viureka

MDMシステム

CABmee

タクシー配車システム



アルコール検知器



除菌消臭装置

エンターテインメント ソリューションズ分野



音響機器



業務用ビデオカメラ



プロジェクター



ポータブル電源



ヘッドマウント
ディスプレイ



VICTOR
ENTERTAINMENT



音楽・映像事業

セーフティ&セキュリティ分野



無線通信システム



映像セキュリティー
システム



非常用放送設備

Ko:Ne
[クーネ]
Presented by Victor Entertainment

空間音響デザイン
ソリューション



ナンバー認証、
顔認証システム



フォークリフト安全
運転検知システム



医療用高精細モニター



自閉スペクトラム
診断補助装置

DVR（ドライブレコーダー）のご紹介（単独型）

- 標準的な2カメラ搭載モデルから、360°撮影型、デジタルルームミラー型まで、幅広いラインナップを提供

デジタルルームミラー型



Full Hi-Vision
1920x1080

STARVIS

DRV-EM4700

- ✓ **大画面12型IPS液晶搭載**
- ✓ 車体や荷物などで生じる後方の死角を減らし安全性もアップ
- ✓ 前後STARVIS™搭載で夜間のドライブもくつきり録画

360°撮影



STARVIS

DRV-C770R

- ✓ **水平360°全方位録画**+後方録画対応
- ✓ 前後にSTARVIS™搭載
- ✓ リアカメラはリアスモークガラスに対応した「明るさ調整機能」を搭載

前後2カメラ



Wide Quad-HD
2560x1440

STARVIS

DRV-MR870

- ✓ 長時間録画に対応したmicroSDカードダブルスロットを搭載
- ✓ 後方からの急接近や蛇行運転などのあおり運転を自動で検知録画する「**AIセシシング**」機能を搭載

※IPS(IN-Plane-Switching)方式とは、液晶分子をガラス面と平行方向に回転させて、バックライトの光の量を調整する方式です。上下左右178度の広い視野角をもち、どの位置で見ても色の変化がほとんどないのが特徴です。

※STARVISとは、SONYが開発した、夜間撮影技術。可視光線領域よりたくさんの光を集めることで、夜間や暗い場所でもキレイに撮影ができます。

DVR（ドライブレコーダー）のご紹介（通信型）

- 通信機能を搭載したドライブレコーダーを保険会社様向け及び自動車メーカー様向けに供給

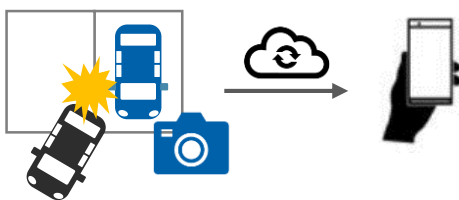
損害保険会社様向け



事故発生時に保険会社様へ事故映像を自動通報し、オペレータが迅速に対応します

- ✓ 一定以上の衝撃を検知時、映像や位置情報を保険会社様に自動送付
- ✓ ドライブレコーダーの通話機能でオペレータがお客さまをサポート
- ✓ 保険会社様ではAIを活用し映像や車の速度、位置情報から事故状況を分析

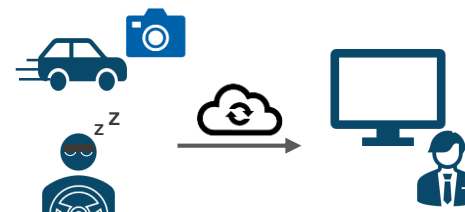
自動車メーカー様向け



駐車中の異常検知時にユーザーに録画映像をアプリ経由で送信します

- ✓ 駐車録画中に異常を検知したら通知と動画/静止画をゲートウェイサーバーに送信
- ✓ 異常を検知した旨をユーザーにPush通知
- ✓ ユーザーは自車の状況をLiveに近い状態で確認が可能

フリートマネジメント事業者様向け



各種センサーで運転挙動を検知し、運行管理者と共有することで、安全運転教育を効率化します

- ✓ 運転挙動や運転手の状態を検知時、映像や位置情報を運行管理者に自動送付
- ✓ 運行管理者は検知した内容や頻度によって、効率的な運転指導が可能

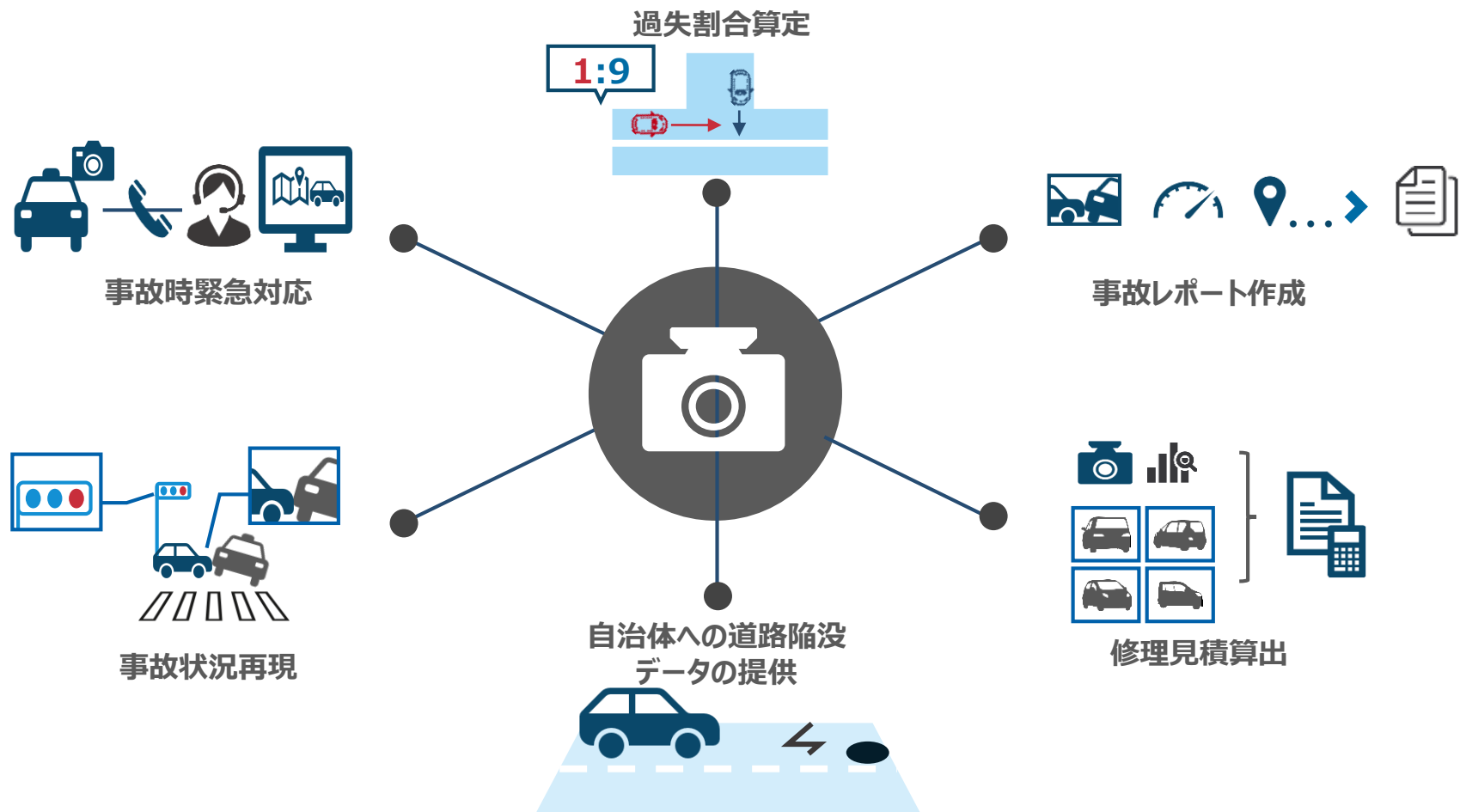
通信型DVR（ドライブレコーダー）で取得できるデータ

- DVRでは、車内外の映像のみならず、各種センサデータやAIによる検知データの取得が可能。さらに、通信機能を内蔵していることで、活用の幅が広がり、様々な分野で価値を創出



損害保険会社におけるDVRデータの活用

- 損害保険会社はDVRデータを活用することで、事故補償のみならず、事故の未然防止や迅速な回復支援などの新たな価値を保険に付加。また、インフラのメンテナンスなど、幅広くDVRデータを活用



フリートマネジメント/ライドシェア事業者におけるDVRデータ活用

- フリートマネジメント事業者では、センサデータやAIの検知データなどを用い、安全運転教育/運行管理システムとして活用され、ライドシェア事業者には、強盗被害や事故時の緊急通報ソリューションとして活用

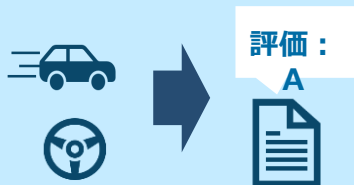
フリートマネジメント事業での活用事例

運行情報把握



顔認証や位置データなどによる
運転者別の運行情報の提供

運転診断レポート作成



急加減速や急ハンドルなどの
検知結果を元に運転診断

危険運転アラート



居眠りや脇見などの危険運転
をAIで検知し、運転手に警告

緊急時対応



事故時の事故映像保存や
通報などの緊急対応サポート

ライドシェア事業者での活用事例

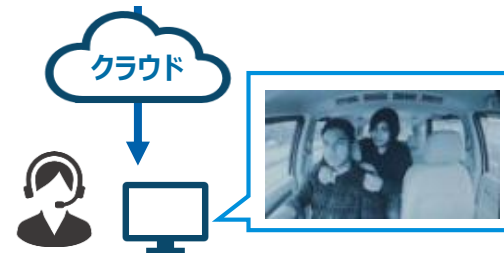
ドライバー安全支援



ドライバーによる
パニックボタンの押下

事故時の衝撃

データ（社内外画像・位置）を送信



画像確認やドライバーと通話し、
必要に応じて救援を要請

消防活動におけるDVRデータ活用に関する実証実験

- 災害発生時、119通報の内容だけでは不十分な災害地点の情報を、DVRの車外映像データでリアルタイムに補完し、より迅速かつ適切な消防活動に繋げるための検討をすべく、消防局、自動車会社と共同で実証実験を実施中

実証実験概要

- 実施期間：2022年12月～
 - 2022年12月～2023年5月：技術検証
 - 2023年11月～：運用開始
- 対象地域：大阪府堺市から順次対象エリア拡大中
- 参加団体：消防局、自動車会社、JVCケンウッド
- 実施規模：協力企業のトラック・バス・タクシー車両約400台からスタート

システム概要



ガス管損傷予防に向けたDVRデータの活用

- 三角コーンやバリケードなどから、道路工事をDVRで検知。検知情報をもとに、ガス会社が事前連絡を受けていない道路工事を把握し、工事業者との連携を取ることで、地中のガス管が破損されるリスクを軽減



運転挙動データを用いた高齢者の事故削減に向けた取り組み

- 自動車会社/損害保険社/大学/NPO/教習所など、高齢者の運転寿命延伸を目指す企業・団体とともに、DVRデータの活用による高齢者の事故削減に向けた実証実験や、研究開発を実施中



取組例：高齢者安全運転支援PJ

高齢者事故が社会問題化している中で、高齢者が自らの意思で安全に長く運転できるように、DVRの運転データなどを活用し、安全運転支援・診断を行う次世代のConnectedサービスの実現を目指し、プロジェクトを始動



DVRデータを活用した生活インフラ監視

- AIや各種センサーを用いて道路インフラ上の損傷や、災害時の迅速な避難の妨げとなる事象を検知。予防保全型のインフラメンテナンスの実現により、災害時の被害を最小化

①自治体の公用車やゴミ収集車、タクシーなどにDVRを取付



②収集したDVRの映像データから、インフラの損傷などをAIで検知

検知項目例

	路面損傷 ひび割れや穴など、事故の原因となる路面の損傷
	落下物 重大な事故の原因となる高速道路上の落下物
	道路工事 ガス管や水道管の損傷の原因となる道路工事
	鳥の巣 停電の原因となる、電柱に作られたカラスの巣

③検知結果を位置情報や画像とともに各関係機関に提供。迅速・的確なメンテナンスを支援



自治体



高速管理者



- ・ガス会社
- ・水道会社



電力会社



予防保全型のメンテナンスで『災害に強いまち』へ

DVRデータ活用の発展案



防犯・犯罪捜査支援

警察に映像提供。
捜査や事件の
早期解決に寄与



災害状況把握・復興支援

自治体などの
災害状況把握や
避難・復興計画の
策定を支援



道路インフラ点検支援

道路インフラの損傷
などを検知し、事故
未然防止や点検
効率化を支援




道路監視

道路上での事故や
異常の発生を検知し、
管理者に通報



商圈分析

行先や混雑情報、
顧客情報と連携し、
市場環境を分析



自動運転開発

自動運転の基礎
研究・開発や、
自動運転用マップの
作成に活用



社会課題解決に向けて貢献できること

交通事故
削減など

国民が安心して移動を楽しみ活発な社会活動を行える環境の整備

インフラ
維持管理
の効率化

世界中の人を魅了する、利便性と安心を享受できるインフラ環境の維持管理と効率化

減災/防災

災害を最小化する国民の自助・共助活動を容易に可能にするサポート

